

2022年度 教育実践総合センター活動概要

1. 構成員

センター長（併任）

教授 栗原 慎二

センター担当教員

《学校教育相談実践部門》

教授 栗原 慎二（併任）

准教授 深谷 達史（併任）

《教育実践研究開発部門》

准教授（実務家教員） 大久保幸則（併任）

准教授（実務家教員） 木佐木太郎（併任）

事務補佐員

竹ノ中亜由美

非常勤相談員

教育臨床相談 エリクソン ユキコ

センターの概要

二つの部門を設置し、学校や教育委員会等の教育・行政機関や地域と連携を図りながら次のような活動を行っている。

教育実践研究開発部門では、高い専門性と優れた指導力を持つ教員を養成するための教育事業や研究・カリキュラム開発を行うとともに、学校の実践研究に対するコンサルテーションも行っている。学校教育相談実践部門では、現在の学校教育が抱える問題を解決・予防するための研究や、相談・支援活動を行っている。平成18年度から学校心理教育相談室（ここにこルーム）を設置し、学習や生徒指導・研究相談にかかわる心理教育的支援、学校心理学に関する教育・研究を行うとともに、学校心理学に関する研修の機会を提供している。

2. 主催・共催による公開講演会・シンポジウム・研究会等の活動

子どもの心と学び支援セミナー

①「香港における包括的生徒指導の実際と日本のこれから」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生

期日：2022年5月21日（土）

場所：広島グリーンアリーナミーティングルーム

形態：対面・オンライン

講師：栗原慎二（広島大学）

中井俊之（広島市立小学校）

米田茂（広島県/広島市SC他）

山下直哉（広島市立中学校他）

参加者数：48名

②「【積み上げる】UDL！」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生

期日：2022年7月2日（土）

場所：ビッグフロント広島5階

形態：対面・オンライン

講師：バーンズ 亀山 静子（NY州公認スクールサイコロジスト）

川俣智路（北海道教育大学教職大学院）

参加人数：68名

③「つなぐ」児童精神医療と学校の連携とは？」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生

期日：2022年9月10日（土）

場所：TKP 広島駅前カンファレンスルーム

形態：対面・オンライン

講師：土岐茂（医療法人あさだ会 第2心療クリニック「コモリエ」・院長）

升田智子（医療法人あさだ会 浅田心療クリニック・精神保健福祉士）

西垣伸吾（大阪公立小学校）

参加人数：42人

④「様々な場からの不登校支援」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生他

期日：2022年11月19日（土）

場所：TKP 広島本通カンファレンスセンター

形態：対面・オンライン

パネリスト：茨木泰丈（東京大志学園）

クラーク記念国際高等学校広島キャンパスの皆様

阿久津遊（NPO 法人カタリバ roomK）

瀬川知孝（NPO 法人カタリバ roomK）

指定討論・コメント：栗原慎二（広島大学）

参加人数：62人

⑤「メンバーの実践に学ぶ会」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生

期日：2023年1月21日（土）

形態：対面・オンライン

場所：東区民文化センター

発表者：井上和紀（広島大学教職大学院）

井上晴香（広島市公立小学校）
吉武綾子（佐賀県公立小学校）
内野剛（福山市公立小学校）
菅原尚俊

参加人数：37人

⑥「ピア・サポートプログラム体験ワークショップ」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生
期日：2023年3月4日（土），5日（日）

形態：対面

場所：合人社ウエンディひとまちプラザ

講師：中林浩子（下関市立大学）

栗原慎二（広島大学）

参加人数：38名

3. 研究活動状況

センタープロジェクト研究

①科学研究費助成事業基盤研究（B）

「認知的スキルと社会情動的スキルの統合的介入
方策の開発と評価」

②科学研究費助成事業基盤研究（C）

「全ての児童生徒にとって効果的な共同学習モ
デルの開発」

③岡山県総社市との協力に基づく共同研究

「マルチレベルアプローチによる生徒指導改革
の研究」

④宮城県石巻市との協力に基づく共同研究

「学習指導の改善のための実践研究」

⑤虐待防止の為に保護者教育プログラムの開発

4. 教育・社会貢献事業

（1）にこにこルーム（学校心理教育支援室）

《学習相談》

にこにこルームの学習相談に参加した学生は
58名。

①前期（2022年5月11日から2022年7月27日）

東広島市内の小中学校から4年生以上の児童
生徒24名を対象に，5月11日から7月27日
までの計10回，毎週水曜日17時から18時，
または18時15分から19時15分までの60分，
対面で認知カウンセリングを行った。終了後，
毎回ケース検討会を行った。

②後期（2022年10月26日から2023年1月25日）

東広島市内の小中学校から4年生以上の児童生

徒26名（前期からの継続を含む）を対象に，
10月26日から1月25日までの計10回，毎週
水曜日17時から18時，または18時15分から
19時15分までの60分，対面で認知カウンセ
リングを行った。終了後，毎回ケース検討会を
行った。

③その他の活動

地域の小学6年生8名を対象に，2022年9
月18，23，24，25日の4日間，午後4時から
7時までの時間帯に，算数，外国語，社会の学
習法を学ぶ講座を実施した。

《学校臨床相談》

一年間を通じて臨床心理士と大学院生の学生
支援員による学校臨床相談活動を実施した。1
回の面接は50分で，原則10回～15回を上限
とした回数限定でカウンセリングやソーシャ
ル・スキル・トレーニング（以下SST）等を行
った。学生支援員が担当するケースの判別は臨
床心理士が行い，インテーク面接の実施後，学
生が児童生徒の面接を担当した。

①にこにこ広島ルーム（毎週土曜日）

広島大学東千田キャンパス内の相談室にて，
毎週土曜日（10時～17時30分）に完全予約制
で相談活動を行った。来談件数は10件で，延
べ相談件数は42回（1月31日現在）。来談の
ケースは小学校1年生～高校3年生。不登校及
び不登校傾向，発達障害，友人関係の悩み，子
育て不安などに関する相談等が中心であった。
また兄弟姉妹共に不登校のケースは当該児童お
よび保護者へのカウンセリングを実施した。

②にこにこ東広島ルーム（毎週日曜日）

広島大学キャンパス内の相談室にて，毎週日
曜日（10時～17時30分）に完全予約制で相談
活動を行った。来談件数は9件で，延べ相談件
数は20回（1月31日現在）。来談のケースは
小学校1年生～高校2年生。不登校及び不登校
傾向，発達障害，対人不信，子育て不安など
に関する相談であった。また兄妹共にカウンセ
リングが必要なケースは学生支援員2名および指
導員で母子並行面接を実施するなど利用者のニ
ーズに合わせた支援を実施した。

③定期ケース検討会（木曜日18時～20時30分）

前期・後期共に定期ケース検討会を実施した。
参加学生は事前登録した35名で，臨床心理士
及び学生支援員の担当するケースの事例検討会
を行った。また，学級経営，児童・生徒のアセ

スメント、カウンセリング基本技法、SST技法等の勉強会を実施した。(延べ24回)

④ボランティア実習

広島市内の母子自立支援施設への学習支援事業において学習支援ボランティア実習(最低5回以上)をオンラインで実施。学生は実習後に毎回レポートを提出し、教員によるフィードバックを受けた。派遣した学生は延べ112名。受益者数は延べ282名であった(1月31日現在)

⑤集団ソーシャル・スキル・トレーニング&学習カウンセリング実習

地域の児童・生徒を対象に2022年10月27日から2023年1月19日まで計5回、対面による集団SSTを行った。参加者は対人関係の苦手な子どもや発達障害の傾向のある児童・生徒で、発達の課題が顕著にみられるグループ(小学4~5年生6名)と対人スキル向上に焦点をあてたグループ(小学4~6年生6名)に分かれ、集団SSTを学生支援員が担当し教員の指導のもと実施した。

(2) 学校コンサルテーション活動

概要：学校での生徒指導・教育相談に関するコンサルテーション

時期：通年(約20回)

対象：教員および保護者等

人数：延べ約150名

(3) 研修会及びワークショップ

概要：学校での生徒指導・教育相談に関する研修会及びワークショップ

時期：通年(約40回)

対象：教員等

人数：約1000人

(4) フレンドシップ事業「ゆかいな土曜日」

教育実践総合センターの教員をはじめ学内委員13名(例年は下見地区の地域の方等も学外委員として参加)から成るフレンドシップ事業運営委員会を組織している。「地域教育実践Ⅰ・Ⅱ」「地域教育支援実習Ⅰ・Ⅱ」の授業として通年で開講した。2022年6月から12月にかけて年間6回の活動日を13時から17時の時間帯で行った(最終日のみ11時から17時の時間帯で行った)。73名の学生及び東広島市立小学校から募集した61名の児童が参加した。「ミックスあそびグループ」、「あとリエグループ」の2グループに分かれ、それぞれ児童6~9名と学生5名の4班を編成し、計8班でグループ活動を行った。

5. 研究紀要の刊行

・学校教育実践学研究(第29巻)の刊行